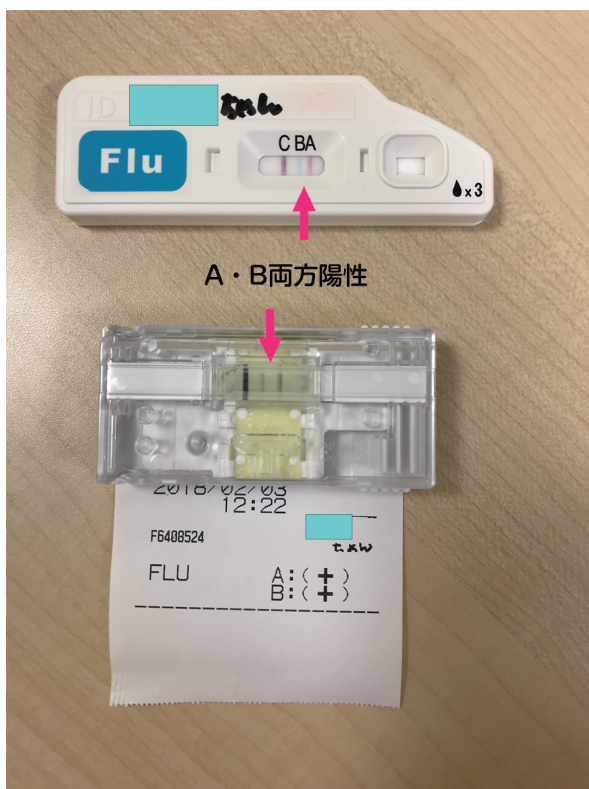


やはりこれは重複(同時)感染なのか？

青い鳥こどもクリニック 引田 満

今シーズンはインフルエンザが大流行となりました。A型とB型が並行して流行したためか、短い間隔で両方に感染する児童生徒が例年よりかなり多く見られました。ところで検査キットでAとB両方が陽性となるケースを先生方も経験されていることと思いますが、私の経験上、判定線は両方ともかなり薄いのが通常です。このような場合、当院では患者の(保護者の)了承が得られれば別のメーカーのキットで再検査をしております。ちなみに最初に「クイックナビFlu(大塚製薬)」(ラテックス法)を使い、再検査には「富士ドライケムFluAB(富士フィルム)」(金コロイド銀増幅法)を使用しています。ひとシーズン2~3件と少ないですが、直近の3年間に限れば再検査の結果は全例がA・B両方とも陰性でした。このような場合の解釈と対応ですが、家族内感染と考えられ、典型的な症状があればインフルエンザと判断して抗インフルエンザ薬を処方したこともあります。それ以外は他の病原微生物などとの交差反応(?)と考え、インフルエンザではありませんと説明をしてきました。この点については異論のある先生方もいらっしゃると思います。ところが今回初めて、写真に示すように再検査でもA・B両方ともくっきりと濃い線が出現していたので驚きました。臨床症状はインフルエンザに典型的なものであり、前述したようにA・Bが並行して流行しているシーズンの傾向を考えれば、今回は重複感染(同時感染)と考えるのが合理的だと思いました。



➤➤➤ クイックナビ Flu

➤➤➤ フジドライケム FluAB



参考までにそれぞれの添付文書を抜粋してみます。

クイックナビFlu

A型テストライン(赤色)とB型テストライン(青色)の発色が同時に認められる場合には、重複感染の可能性はありますが、その頻度は極めて低いと考えられます。両方のテストラインの発色が類似の場合や不明瞭の場合には偽陽性の可能性が考えられます。

フジドライケムFluAB

A型、B型両方陽性の結果であった場合、A型とB型の重複感染の可能性もありますが、念のため再度検体を採取して検査を行ってください。また臨床症状やその他の検査結果等から総合的に判断してください。

両者とも重複感染の可能性を否定してはいません。フジドライケムにはムンプス、アデノ、RS、パラインフルエンザ、コクサッキー、エコー、コロナ、ライノ、単純ヘルペスといった日常診療で遭遇するウィルスとの交差反応は確認できなかったとの記載があり、実用上は概ね問題ないのかもしれませんが、完全な検証とは言えません。感度も特異度も100%の検査キットはありませんから、そのシーズンの流行状況を考えながら判断していくことが必要なのでしょう。詳しい情報をお持ちの先生はご教示いただければ幸いです。

当院周辺ではB型が優勢ですが、無熱ないし微熱の軽症なものが例年より目立つような気がします。検査キットの判定線の発色も全般的に薄いため、偽陰性がかなりあるのではないかと不安になります。B型はA型に比べ粘膜で増殖するウィルス量が少ないのかもしれない。
